「出題の意図」

選抜区分	2025年度（選抜区分：一般選抜 後期日程） 法学部 両学科共通（科目名：面接）
出題の意図 (評価のポイント)	<p>法学部では、一般選抜後期日程において、面接による選抜試験を実施している。面接試験を実施する理由は、単に大学入学共通テストの成績のみで選抜するのではなく、対話形式で社会的問題への関心等を問うことにより、勉学への主体的意欲と幅広い素養を持った学生を選抜するためである。</p> <p>従って、面接にあたっては、①法学部生として必要とされる社会に関する基礎的知識と問題関心、②社会的問題に対する論理的思考力および多角的検討能力、③プレゼンテーションおよびコミュニケーション能力、④受験生の入学意欲や将来設計を含む志望動機等を中心に評価している。</p> <p>第1問では、学科の志望動機と入学後にどのようなことを学びたいかを問うことで、1分程度という時間の区切りの中で受験生が要領よく自分自身の言葉で順序立てて説明できるかを評価した。</p> <p>第2問では、下水道管の老朽化対策という観点から、下水道使用料について出題した。</p> <p>わが国の社会基盤施設の老朽化は、高度経済成長期（1950～70年代）に整備された社会基盤施設が一斉に更新時期を迎えつつあることが原因である。特に、道路、橋梁、トンネル、上下水道などは、老朽化の進行が著しく、維持管理の重要性が増している。しかしながら、人口減少や財政難により、補修・維持管理のための予算や人材が不足し、対応が後手に回っており、効率的な維持管理手法の確立が急務となっている。そうした背景のもと、2025年1月28日に埼玉県八潮市の県道で下水道管の破損などが原因とされる大規模道路陥没事故が発生し、トラック1台が巻き込まれた。影響は広範囲に及び、約120万人に対して下水道の使用自粛が求められ、周辺道路での交通規制も行われた。早期復旧に向けた作業が進められているが、事故現場では地盤の不安定化が進行しており、安全確保のための調査と対策が必要なことから、具体的な完了時期は明示されていない（2025年3月12日現在）。</p> <p>下水道の老朽化対策には安定した財源が必要であるが、多くの自治体は財政難により十分な予算を確保できていない。下水道事業は独立採算制を基本とし、受益者負担の原則に基づく運営が求められているため、下水道の維持管理費の確保を目的として下水道料金の引き上げが検討されている。しかしながら、住民の反発が強く、一部では税金による負担を求める意見もみられる。その主な原因として、エネルギー価格の高騰や円安の影響による物価上昇に実質賃金の伸びが追いつかず、低所得世帯を中</p>

心に家計の圧迫が深刻化していることが挙げられる。

そこで、本問では、受験生の多くがこれから直接・間接的な影響を受けるであろう政策課題を題材に、面接官との対話や応答を踏まえ、異なる意見に謙虚に向き合いつつ、自分なりの意見を立論する能力を有しているかを問うこととした。

第3問では、最近の社会的事件・出来事について問うことで、受験生が、①社会的問題に関心を有しているか、②それについてどの程度の知識を有しているか、③それを説明する能力を有しているか、④質問された内容に対して的確な回答ができるかを評価した。